

# 100年 先を読む

14

## 潤沢な 余剰時間の活用が 企業の商機となる

### 『モモ』が示唆する 搾取される時間の解放

ドイツの経済学者シルビオ・ゲゼルが『自然経済秩序』(1914)という書籍を出版している。あらゆる商品は時間の経過とともに価値が減少していくが、通貨だけは減少しないために利子という仕組みが発生し、富裕な人々は通貨を所蔵するだけで、より富裕になり、社会を歪曲させていると指摘している。そこで通貨の特権を廃止するために時間とともに価値が減額していく自由通貨を導入する。そうすれば人々は通貨を退蔵せず使用するから経済が循環するという理論である。

実際、世界的大恐慌の影響で世界全体が不況になった1930年代に、オーストリアのヴェルグルという地方都市で、市長が毎月減価していく通貨を発行し、その通貨を不況対策の公共事業の賃金として支払ったところ、受領した人々は納税や買物に率先して使用したため、一気に経済が循環に転換し、失業者数が大幅に減少した。これは大恐慌発生源のアメリカからも視察が殺到するほど注目されたが、通貨の発行は中央銀行の専権事項であるとの判断で停止させられた。

この通貨を時間に置換し、社会の根底に存在する問題を指摘したのがドイツの作家ミヒャエル・エンデの『モモ』(1973)である。そこに登場するのは時間貯蓄銀行という組織で、時間を貯蓄すれば寿命が二倍になると宣伝して人々から時間を取奪する。だれにも平等に付与されている時間を取奪された人々は余裕を見失い、不幸になってい

く。そこに登場するのが主役のモモで、時間泥棒の行員と対決して時間貯蓄銀行の秘密を暴露し、搾取された時間の解放に成功する。

### 人々に時間を提供する情報社会

ところが情報社会の登場により、人々の時間を搾取するのではなく、提供する仕組みが社会に誕生



してきた。かつて情報の伝達には相当の時間と労働が必要であったが、電気通信技術の浸透により両者とも大幅に短縮された。買物には相応の時間を必要としていたが、通信販売の普及により買物時間は一気に縮小した。税金の申告が電子方式に変更された結果、納税は簡単になり、役所も処理時間が減少するだけではなく、申告内容の正否も簡単に判断できるようになった。

実際、日本の年間労働時間は1960年代の2400時間から最近では1700時間と700時間も短縮している。年間労働日数で割算すれば毎日3時間以上の短縮である。現在では別人の創作と判明したが、世界で数百万部も出版された南海の島国の酋長の演説の集成『パパラギ』(1920)は西欧社会の時間感覚を皮肉って、人々は一日を細分し、いつも時間不足で右往左往しているが、たまに余裕ができると今度は不安になると指摘している。この余裕を幸福にする戦略が必要である。

筆者が体験した『パパラギ』の指摘とは対極の時間がある。アマゾン川源流域で調理をしている先住民族の女性に、あと何分で料理が完成するか



と質問したところ、美味しくなったときという見事な返事であった。大切なのは結果ではなく過程であり、ここに情報社会の役割が存在する。高速鉄道が普及した結果、移動時間は大幅に短縮した一方、何日もかけて全国を移動する豪華列車の旅行が登場し人気である。同様に空路の何倍もかけて移動する船旅も急増している。

情報技術は現代のモモである。時間は凡人に平等に付与された唯一の資産であるが、かつては労働のために大量に消費されていた。しかし、その時間は情報社会になって急速に減少し、現在の毎週40時間という慣習は、ジョン・メイナード・ケインズによれば、やがて15時間になる。現代のモモが獲得してくれた自由になる時間は2倍以上になる計算である。この膨大な資源をどのように利用していくかは、個人にとっても社会にとっても情報社会の重要な課題になる。

モモが打破した時間貯蓄銀行は人々の時間を取奪することをめざしていたが、これからは人々の時間を共有して利用する時間流通銀行が必要になる。その一例はゲゼルの理論から派生した地域通貨であり、自分の余剰時間を地域社会の維持のために提供することをめざしている。企業にとっても社会の膨大な余剰時間を自社の利益のためだけでなく、社会を維持するために利用する方策を検討していくことが情報社会での商機になる。



東京大学名誉教授  
つきおよしお  
**月尾嘉男**  
Tsukio Yoshio

昭和17(1942)年生まれ。東京大学工学部卒業。工学博士。コンピュータ・グラフィックス、人工知能、仮想現実、メディア政策等を研究。全国各地でカヌーとクロスカントリースキーをしながら私塾を主宰し、地域の有志とともに環境保護や地域計画に取り組む。著書に『幸福実感社会への転進』(モロロジー研究所)、『転換日本』(東京大学出版会)ほか多数。